



もくれんだより

おちらと

株式会社もくれん
広報誌 第4号
2019.03.15 発行
lzumo-mokuren.com



平成三十一年三月吉日

株式会社もくれん 代表取締役

上田 英範

職員一同

平成が始まって三十年目という節目の年度もいよいよ終わりが迫って参りました。来年度は平成から新しい元号へ移行すると同時に、弊社「株式会社もくれん」は開業十周年を迎えました。非常に感慨深いものがあります。これも偏にご利用して下さる方々、ご家族、地域の皆様など、たくさんの方のお力添えがなくてはなりません。この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。今後も未長く「株式会社もくれん」を「ご愛顧頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。」

デイサービスもくれん (地域密着型通所介護事業) 本店:TEL 25-7230 荒茅店:27-9651

デイサービスでは、午前中の活動は四季折々な所へお出掛けしています。春は梅や桜、ツツジなどの花見、夏は海や道の駅でソフトクリームを食べにお出掛け、秋は紅葉、冬はドライブやお買い物などなど、1年通して様々な場所へ出かけています。

外出の場所は事前に決めるのではなく、天気を見ながら「今日は何をしましょうかね」と皆さまと相談をして外出先を決めています。その中で、「何十年振りに来れて良かったわ」「ここに来るとるけん、色々な所に行けるわ」「いつもね、帰ったらどこ行ったか聞かれるに。友達にもいいねって言われるよ」と、外出を楽しみにして下さいます。

また、室内での活動は賑やかにトランプや将棋崩しを楽しまれたり、ルームマーチで足の運動、ゆっくりと本を読まれる方、歌や音楽を聞きながら一緒に歌を歌われる方、趣味活動として塗り絵、編み物等を皆さまがご自分の好きな活動をしながら、それぞれの時間を過ごされています。



利用される皆さまからは、「1人だとできらんけど、このメンバーだと色々できるわ」「懐かしい遊びもできて、楽しいわ。いっぱい笑ったわ」「今日も楽しかったわ」「ここに来るのが楽しみだに」「今日も1週間分喋ったわ」「昔は戦争で大変だったので今が青春だわ」という言葉の贈り物を頂けることが「また明日も頑張ろう」という原動力になっています。

これからも理念である『ご利用者本位』のサービスを提供し、皆さまにとっていつまでも楽しみの場であり、そして在宅生活を支えていけるよう一生懸命に取り組んでいきたいと思っております。

< デイサービスもくれん荒茅 >

昨年の8月。忘れもしません、それはそれは暑い真夏日でした。
見慣れないご高齢の方がお一人でもくれんの前を歩いておられました。



歩くご様子が少し不安定で、転ばれないか心配だったため、声をかけさせて頂くと「家に帰ろうと思っているけど家の場所が分からなくて」とおっしゃられました。季節に似合わない服装に併せてこの暑さ。大汗をかいておられ、脱水の疑いもあったため、一旦もくれんに一緒に入り、涼しいところで水分補給。そのうちご自分で自宅の場所を説明して下さいだったので、お気持ちが落ち着いた頃に自宅へお送りしました。

後日、ご家族から連絡が入り、先日の対応を感謝されると同時に「実は困っています・・・」と相談を受けました。



同居のご家族からの相談の内容とは「実は、本人は認知症のため自宅に一人にしておくのが不安だったので、ケアマネジャーに頼んでデイサービスに行くようにしてもらった。でも、“デイサービスには行きたくない”と嫌がって、デイサービスで“帰る”って騒いで、終いには“行かない”って言い始めて・・・。私も困るものだから、私の車でデイサービスまで連れて行ってデイサービスに置いて帰り、そこで一日我慢して過ごさせるのを繰り返した結果、いよいよデイサービスに行かなくなってしまい、自宅に引き籠り、最近は近所を歩くようになって・・・」というものでした。「どうしたら良いか分からなくて」ととてもお困りのようでした。

そこから担当のケアマネジャーにも相談した上で「私たちに出来ることがあれば」と私たちの支援が始まり、まずは“お試し”ということで毎日2回の訪問から信頼関係作りを始めました。そのうち、訪問時に一緒にお茶が飲めるようになり、ご家族の希望もあって本契約となり、ついには短時間からの通いサービスをご利用できるようになりました。今では、週3回の通いサービスのご利用と入浴まで対応させて頂けるようになっていきます。当然、近所を出歩く姿も見られなくなりました。昔の名残か「帰りたいわ」とおっしゃられることもあります。次第に笑顔も増え職員との信頼関係もより深まっているように思います。

ご利用者への良好なサービス提供において、最も重要なことは「お互いの信頼関係」がどれ位構築できるかどうにかかっています。最初は数分の訪問サービスから始まり、時間をかけて、本人のペースで、本人に合ったやり方で、少しずつ積み上げてきた信頼関係があつてこそ、初めてココロ許せる時間が生まれるはず。サービスとはその先にあるものだと思います。

私たちは「サービスを入れてしまう」ことよりも「サービスを受け入れてもらえる」ことを大切に日々考えて参りました。その一つが成果として見られたのが、本事例かと思えます。



これからもご利用者の主体性を尊重し、柔軟で使い勝手の良い小規模多機能型居宅介護事業所を目指して、職員一同取り組んで参りたいと思います。今年度もありがとうございました。

当事業所には「交流室」というスペースがあります。少し広めの八畳間、独立した玄関、お風呂、洗面、洗濯機、トイレの付いたスペースです。このスペースは当初「看取りの家」と呼び、誰の気兼ねもなく、ご家族と最期の大切な時間を過ごして頂くことを目的としたものでした。今年度は3名の方を在宅診療の専門医の先生に携わって頂き、事業所内でお看取りさせて頂く機会がありました。3名の方皆さんがご家族に見守られる中旅立たれ、そのうち2名の方は、最期のひとは、ベッドを「交流室」に移された上で、ご家族と一緒に過ごすことが出来ました。初めて「交流室」が「看取りの家」として、皆様のお役立てが出来た一年でした。

私どもは常々「ご家族に似た存在になれても、ご家族の代わりにはなれません」と、そのようにお伝えをしています。私たちには私たちの役割があるように、ご家族にはご家族の役割があるとそう考えています。特に「お看取り」の場合、ご家族の役割はご家族にしか果たすことが出来ません。大変にお忙しい中でもありますし、時代背景も刻々と変化している中、夜間のお付き添いや緊急対応のご依頼等は非常にご負担かと思われまます。しかし、大切なご家族と共に過ごしたかけがいの無い時間は、ご利用者のお気持ちへのサポートはもちろん、ご家族同士の結びつきをより深め、一世代、二世代とより多くのご家族へ広がっていくものと信じています。また私たち職員にとっても、そのような大事な時間を共に過ごさせて頂くことで、お看取りを通じて多くの学びを頂戴することが出来、私たち自身や私たちの周りの人間の人生に対しても、大きな影響を与えて下さいます。



つまり、一つ一つのお別れから、ご家族も私たちが「共に学ばせて頂く」訳です。

これからも、まずは「未長く」お元気に過ごして頂くことを基本とし、大切なご家族とのつながりから優先し、最期の瞬間まで共に歩んで頂けるように、微力ながらお手伝いさせて頂ければと思います。

最後になりましたが、とあるご利用者がお亡くなりになった一カ月後に、当事業所の担当の職員からご家族宛に綴ったお手紙をご紹介します。グループホームもくれんの、平成三十年度の記事とさせていただきます。今年度もありがとうございました。

年の瀬が迫って参りましたね。時の流れは早いもので、Aさまのお別れから一カ月経つのですね。皆様いかがお過ごしでしょうか？もくれんでは、既に次の方が入居されていますが、まだどこかぼっかり穴が空いているようです。Aさまのお部屋にあったサボテンは寂しそうに……でも、今も強くピンク色の花を咲かせてくれています。

昨今、Aさまについて色々想いを馳せておりました。つい先々月のことだったと思います。

Aさまがグループホームでの生活について、入居者としての考えや想いを論ずるように話して下さいました。

「あなたなら分るでしょう？これからはしっかりやりなさいね。本当よ？」

リビングからAさまのお部屋に戻り、2人になった際の突然のことだったので、私は少し驚きましたが、真摯に受け止めました。

「静かで穏やかな場所だから」と、ご家族様と一緒に選んで頂いた「もくれん」でしたね。とはいえ、他人同士の共同生活の場……色んな日があり、色んな思いを抱えながら過ごされたかと思います。

“ご入居者お一人おひとりの一人、一瞬を大切に”、この日の出来事に改めて背筋を伸ばすことが出来ました。ありがとうございました。

花や動物を愛でる、心優しいAさん。どなたとでも楽しくお喋りされる、朗らかなAさん、イタズラっぽく笑う、お茶目なAさん、時に厳しく窘める、芯のあるAさん、ご家族の思い出を語られる、情緒豊かなAさん。思い返して見ると心温まる思い出ばかりでした。Aさまとの出逢いに心から感謝致します。

ご家族様におかれましては、大切なお姉さまに旅立たれ、さぞかしお力落としのことと存じます。

一日も早くお心の痛みが癒えますよう、お祈り致しております。ご家族様もどうかご自愛下さいませ。

介護のよろず相談所もくれん (居宅介護支援事業所) TEL 25-7591

先月より新規で担当させて頂いた男性ご利用者のお話です。その方はお若く一人暮らしの方で、持病のため最近急激に体が動きにくくなってきたとのことでした。元々社交的な方ですぐに打ち解け色々なお話を伺うことができました。

何度か訪問するうちに、趣味のお話になりました。釣りが好きとのこと、お元気であった頃は、山奥(以前の居住地)から出雲方面の海までよく出かけていらっしゃったようです。「暖かくなり病状が落ち着いたら、一緒に釣りに行きましょう」と約束して、ご自宅を後にしました。

それから数日後、ヘルパーさんから緊急の連絡が入りました。「買い物を頼まれて訪問しましたが、ベッドの上で横になったまま、意識もなく呼吸も止まっています。」

私も予定の業務を急遽キャンセルして直ぐにご自宅に駆け付けました。ご自宅にはすでに警察の方が、現場検証に入っておられ中に入ることはできませんでした。ご遺体も警察が検死するとのこと、警察署のほうへ移送されていきました。あまりにも急なことで、ただただ茫然とするばかりでした。

この時に「人の死はいつ訪れるかわからない」ことを痛感致しました。これまでも担当している方の死に携わることはあり、いつかはお別れが来ると、頭ではわかってはいるつもりでしたが、今回は全くの想定外であり、大きなショックと共に強い悲しみを感じました。この若いご利用者のご冥福をお祈りするとともに、これからも「一期一会」を心に刻み、支援に努めようと強く思いました。



< 介護のよろず相談所もくれん >



いつもありがとうございます。



<< 編集後記 >>

今年度、湖陵店においては地域の夏祭りの出店や防災訓練への参加など、様々な取り組みが進んだ一年でした。特に地域の若い者会「八幡クラブ」の皆様におかれましては、いつも多分なお心遣いを頂きまして心から御礼を申し上げます。

昨今、若年層の地域離れが進む中、非常に熱心に地域活性化のために取り組まれる皆さんの姿に、私たちはいつも助けられています。今後もよろしく願います。

<もくれん広報誌 編集委員会>

< 株式会社 もくれん > 〒693-0052 出雲市松寄下町 1286-1

Tel (0853)25-7230 Fax (0853)25-7231 URL:izumo-mokuren.com E-mail:mokuren@honey.ocn.ne.jp

☆デイサービスもくれん(江角) Tel (0853)25-7230 ☆グループホームもくれん(木村) Tel (0853)43-8522

☆デイサービスもくれん・荒茅(岡) Tel (0853)27-9651 ☆小規模ホームもくれん(小村) Tel (0853)43-8522

☆介護のよろず相談所もくれん(川上)Tel (0853)25-7591